

ブラジル学校の生徒が本学を訪れ、日本の大学を体験しました！

去る7月17日(木)、ブラジル学校であるエスコラ・アレグリア・デ・サベール(EAS)豊田校の高等部の生徒31名と引率教員2名が本学を訪れ、学生たちと交流をはかりました。当日は、2限目にスペイン語圏専攻の渡会先生、ならびに、非常勤講師の久保原先生が担当する「ポルトガル語Ⅰ」のロールプレイングに参加したり、ポルトガル語で歌を一緒にうたいました。その後は、学食で本学学生とともに昼食をとりながらさらなる交流をしました。昼食後はiCoToBaへと移動し、ポルトガル語を含む複数の言語に精通するiCoToBa教員のモルガン先生とネリ先生の授業を体験しました。3限目は国際関係学科の高阪が担当する「多文化共生論」において、多言語表記をテーマとしたグループワークに参加しました。授業後は、渡会先生の「ラテンアメリカ文化」を受講する学生が案内役となり、キャンパスツアーに出かけ、ツアー終了後は、学生会館で一息つきながら会話を楽しみました。盛りだくさんの企画で忙しい1日でしたが、最後は、迎いのバスが到着しているにもかかわらず、時間を忘れていつまでも写真ととりあう姿がみられるなど、交流が深まりました。今回の交流は、国際関係学科の宮谷先生のもとで日本語教育を学んだ下田薫子さんが、現在、EASで日本語教師を行っていることから実現しました。本学の卒業生が地域で活躍する存在となっていることも知ることができ、有意義で嬉しい機会となりました。今回の交流に先立ち、7月6日(日)には、EASの先生にお声がけいただき、iCoToBa教員であるネリ先生の引率のもと、本学学生がEAS主催の「フェスタ・ジュニーナ」というブラジルのお祭りに参加しました。今回、初めての交流でしたが、今後も互いに行ったり来たりしながら、本学の学生にとってはブラジルの言語・文化が、また、EASの生徒にとっては日本人や日本の大学というものが身近な存在になればと思います。

文責：高阪（国際関係）

～写真でふりかえる交流の様子～



【久保原先生担当「ポルトガル語Ⅰ」】



【渡会先生担当「ポルトガル語Ⅰ」】



【学食を体験】



【iCoToBa モルガン先生の授業】



【iCoToBa ネリ先生の授業】



【高阪担当「多文化共生論」】



【キャンパスツアー】



【学生会館でひと休み】

※写真は渡会先生、国際関係4年長坂倫吏（多文化共生論 SA）が撮影

討論、交流「貴重な経験」 ブラジル人生徒 県立大訪問



豊田市浄水町のブラジル人学校「エスコラ・アレグリア・デ・サベール」(EAS)の生徒が十七日、長久手市の県立大を訪問した。

自転車の無事故と防犯フリー参加 瀬戸の中高生が百五十日間、自転車の盗難被害に遭わず、無事故、無違反を心掛ける「自転車無事故無違反無被害フリー」の開始を前に十七日、代表の生徒が瀬戸署に集まり、参加証明書を受け取った。

瀬戸署で行われており、瀬戸署管内では、授業やキャンパスの見学を通して大学生と交流した。ブラジル人の生徒に日本の大学を身近に感じてほしいと、EASが大学側に依頼。同日は、国際舞台で活躍できる人材を育てる「グローバル人材育成事業」に力を入れていること卒業生がEASになることから、生徒が真剣に適切な利用を心掛ける効果がある。一人でも違反をすると、学校全体が失格立高校四校が参加する。この日は六校の代表各二人が署に集まり、安藤定一署長から参加証明書を受け取った。安藤署長は「夏休みを有意義に過ごすためにも、無灯火や無油錠

で教員を務めていることもあり、快諾した。訪れたEAS高校部の二、三年生三十一人は、ポルトガル語や多文化共生に関するディスカッションの授業に参加。その後、大学生(も)は「日常生活で日

祭り 19日(土) 豊田市民会館 19日(土) 豊田市民会館



尾張旭市 渡川福祉センター 19日(土) 尾張旭市 渡川福祉センター



コンサート 23日(水) 前10:00 豊明市栄町大根の地域

募集 10日(水) 11:30(後) 11:20

展示 19日(土) 20日(日) 尾張旭市 渡川福祉センター

展示 19日(土) 20日(日) 尾張旭市 渡川福祉センター

展示 19日(土) 20日(日) 尾張旭市 渡川福祉センター

展示 19日(土) 20日(日) 尾張旭市 渡川福祉センター

展示 19日(土) 20日(日) 尾張旭市 渡川福祉センター

多彩な親子を催しているPO法人「RD(あるど真。十八人が参加